

職業実践専門課程の基本情報について

学校名		設置認可年月日		校長名		所在地																		
国際アート&デザイン大学 学校		平成11年1月21日		中野寿郎		〒963-8811 福島県郡山市方八町2-4-1 (電話) 024-956-0040																		
設置者名		設立認可年月日		代表者名		所在地																		
学校法人国際総合学園		平成7年3月24日		池田 弘		〒951-8063 新潟県新潟市中央区古町二番町541番地 (電話) 025-210-8565																		
分野	認定課程名	認定学科名		専門士	高度専門士																			
文化・教養	文化教養専門課程	音響・ミュージック科		平成30年2月28日 文部科学省告示第32号																				
学科の目的	本校は、工業関係・文化教養関係の専門課程及び高等課程を設置し、社会に貢献しうる人材を育成することを目的としている。推薦学科である音響・照明エンジニア科においては、音響・照明・エンターテインメント業界での即戦力となる技量を習得するために、企業等との連携によって最新の業界動向を教育課程に取り入れるとともに、より実践的な人材の育成を目的とする。																							
認定年月日	平成27年3月31日																							
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技																	
	2 年 昼間	1,914時間	252時間	476時間	1,186時間	0時間	0時間																	
生徒総定員	生徒実員	留学生数(生徒実員の内)	専任教員数	兼任教員数	総教員数																			
40人	28人	0人	1人	6人	7人																			
学期制度	■前期:4月1日から9月30日まで ■後期:10月1日から3月31日まで		成績評価		■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 各学期末の試験、実習の成果等																			
長期休み	■学年始:4月1日から4月10日まで ■夏季:7月27日から8月31日まで ■冬季:12月25日から1月7日まで ■学年末:2月11日から3月31日まで		卒業・進級 条件		・必須科目の単位取得 ・出席率年間90%以上 ・卒業修了制作が合格																			
学修支援等	■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応 欠席者への指導者の対応として 保護者への連絡と家庭訪問の実施		課外活動		■課外活動の種類 学園祭等の実行委員会																			
就職等の 状況※2	■主な就職先・業界等(平成29年度卒業生) 音響・照明業界、イベント制作業界		主な学修成果 (資格・検定等) ※3		■サークル活動: 有 ■国家資格・検定/その他・民間検定等 (平成29年度卒業生に関する平成30年5月1日時点の情報)																			
	■就職指導内容 就職研修会の開催、個別履歴書添削、個別面接指導、キャリア アカウンセラーの面談、新卒応援ハローワークの活用				<table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>舞台機構調整技能士</td> <td>③</td> <td>8人</td> <td>7人</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> </tbody> </table> <p>※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等)</p>			資格・検定名	種	受験者数	合格者数	舞台機構調整技能士	③	8人	7人			0	0			0	0	
資格・検定名	種	受験者数	合格者数																					
舞台機構調整技能士	③	8人	7人																					
		0	0																					
		0	0																					
		0	0																					
中途退学 の現状	■中途退学者 3名 ■中退率 16.7 % 平成29年4月1日時点において、在学者18名(平成29年4月1日入学者を含む) 平成30年3月31日時点において、在学者15名(平成30年3月31日卒業生を含む) ■中途退学の主な理由 学校生活への不適合2名、進路変更1名		■中退防止・中退者支援のための取組 新入生保護者対象のオリエンテーション個別相談会の実施、スクールカウンセラーとの連携																					
	■学校独自の奨学金・授業料等減免制度: 有 「無利子奨学制度」年額30万円を無利子で貸与し、卒業後の返済により就学の便宜を図っている。																							
経済的支援 制度	■専門実践教育訓練給付: 給付対象・非給付対象																							
第三者による 学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: 無																							
当該学科の ホームページ URL	http://www.art-design.ac.jp/																							

(留意事項)

1. 公表年月日(※1)

最新の公表年月日です。なお、認定課程においては、認定後1か月以内に本様式を公表するとともに、認定の翌年度以降、毎年度7月末を基準日として最新の情報を反映した内容を公表することが求められています。初回認定の場合は、認定を受けた告示日以降の日付を記入し、前回公表年月日は空欄としてください

2. 就職等の状況(※2)

「就職率」及び「卒業者に占める就職者の割合」については、「文部科学省における専修学校卒業生の「就職率」の取扱いについて(通知)(25文科生第596号)」に留意し、それぞれ、「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」又は「学校基本調査」における定義に従います。

- (1)「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」における「就職率」の定義について
- ①「就職率」については、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除したものをいいます。
- ②「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者を含みません。
- ③「就職者」とは、正規の職員(雇用契約期間が1年以上の非正規の職員として就職した者を含む)として最終的に就職した者(企業等から採用通知などが出された者)をいいます。

※「就職(内定)状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年度に在籍している学生等とします。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除きます。

- (2)「学校基本調査」における「卒業者に占める就職者の割合」の定義について
- ①「卒業者に占める就職者の割合」とは、全卒業生数のうち就職者総数の占める割合をいいます。
- ②「就職」とは給料、賃金、報酬その他経常的な収入を得る仕事に就くことをいいます。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしません(就職したが就職先が不明の者は就職者として扱わず)。
- (3)上記のほか、「就職者数(関連分野)」は、「学校基本調査」における「関連分野に就職した者」を記載します。また、「その他」の欄は、関連分野へのアルバイト者数や進学状況等について記載します。

3. 主な学修成果(※3)

認定課程において取得目標とする資格・検定等状況について記載するものです。①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの、②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの、③その他(民間検定等)の種別区分とともに、名称、受験者数及び合格者数を記載します。自由記述欄には、各認定学科における代表的な学修成果(例えば、認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等)について記載します。

1. 「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

音響・照明、エンターテインメント業界従事者育成において、より実践的かつ最新の知識・技能を有する者を輩出することが専門課程の責務であることから、当該学科においては、現在実務に従事する非常勤講師の演習や実習のほか、すべての在学生は外部で実施されるイベント行事の音響・照明担当者や運営スタッフとしてインターンシップを行い、企業側・学生側双方の意見、改善点を各々フィードバックし、教育課程の改善を行う方針とする。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

外部有識者、企業等の意見を元に専攻分野の動向、要望を教育課程に取り入れ、実践的かつ専門的な知識・技能を持った人材育成教育を実施するため、「運営会議に関する細則」、「教育課程編成委員会に関する規定」に基づき、教務部の指導助言機関として位置付けている。

教育課程編成委員会での意見は、①教務部部会→②運営会議の順で会議に諮り、最終的に②運営会議で学校長決裁にて教育課程へ反映させることとしている。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

平成30年10月15日現在

名前	所属	任期	種別
中野 寿郎	国際アート&デザイン大学校 学校長	平成30年4月1日～平成32年3月31日(2年)	
佐藤 日和	国際アート&デザイン大学校 教務部長	同上	
薄 崇雄	(社)日本舞台音響家協会	同上	①
安齋友國	株式会社 アール・ケー・ビー	同上	③
有我一弘	有限会社NALコーポレーション	同上	③

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

委員会は原則年2回(毎年5月、11月)開催する。第1回目の委員会では、今年度の基本方針の確認、業界動向とカリキュラム(開催日時(実績))

第1回 平成29年5月19日 13:30～14:30

第2回 平成29年11月2日 13:30～14:30

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

当該委員会において、最新の音響・照明、エンターテインメント業界について意見を聴取し、業界で必要な技量と表現力を習得できるようカリキュラムを見直す。また、企業等との連携により実習を行い、音響・照明のみならず企画や運営に関する現場力を向上させ実践的人材教育を行っている。

今年度は、8月に「ライブハウス実習」(中間発表)に取り組み、その反省を踏まえて後期のカリキュラムに反映させた。

音響実習Ⅰ、音響実習Ⅱでは、デジタルミキサーの実務知識を確実にするために、12月にはその事前研修を実施し、1月には実際のホールで実習を1月に実施した。

企画制作実習(1年生)、企画制作実習(2年生)では、毎年2月に発表している卒業・修了制作発表の音楽ライブに向けて、年内から企画をスタートさせた。

<p>2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係</p>		
<p>(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 実践的な技術を習得するために、専門企業と連携した実習内容とする。</li> <li>2. 実践的な知識を習得するために、専門企業より直接指導を受ける。</li> <li>3. より実践的な内容を学生へ提供するため、時代と業界のニーズを確認し内容改善に努める。</li> <li>4. 学校・団体・企業が連携し、地域・社会・国家・国際社会に役立つ実践的職業教育を行う。</li> </ol>		
<p>(2)実習・演習等における企業等との連携内容</p> <p>企業等との連携により、授業内容や方法、実習・演習等の実施の他、学生の学修成果の評価について連携する。卒業後の即戦力を旨とするため、1年次から企業等との連携により実践的実習を実施して学生へのフィードバックを行う。企業等からの派遣講師によりグループ制作を通して企画・制作の評価と改善指導を実習し、プレゼンテーションを実施して評価と改善指導する方針とする。</p>		
<p>(3)具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。</p>		
科目名	科目概要	連携企業等
音響実習Ⅰ	舞台音響の基礎を理解し、実際の機材で操作の基本を身につけ、ホールでのライブ実演に対応できる技術を習得することを目標とする。理論と実習で評価を行う。	(社)日本舞台音響家協会 株式会社 アール・ケー・ビー
音響実習Ⅱ	舞台音響の基礎を理解し、実際の機材で操作の基本を身につけ、ホールでのライブ実演に対応できる技術を習得することを目標とする。理論と実習で評価を行う。	(社)日本舞台音響家協会 株式会社 アール・ケー・ビー
企画制作実習	音楽イベントの企画と運営に関する基礎知識を学習し、目的達成のためのプロセスを実習する。実習で評価する。	有限会社NALコーポレーション
企画制作実習	音楽イベントの企画と運営に関する基礎知識を学習し、目的達成のためのプロセスを実習する。実習で評価する。	有限会社NALコーポレーション
<p>3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係</p>		
<p>(1)推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針</p> <p>基本は企業現場からの教員採用を前提としているが、学校内部で教員年数を重ねていくにつれ、ややもすれば過去の知識・経験のまま陳腐化した教育を施す危険性もある。このため、就業規則第57条等による教育・研修体制、特に外部研修を充実させ、前年度中に教育課程編成委員会にて連携している企業等からの意見を参考にして研修等の時期と内容を検討し、教員の勤続年数に応じて研修計画を策定して受講させる方針とする。</p>		
<p>(2)研修等の実績</p> <p>①専攻分野における実務に関する研修等</p> <p>研修名「音楽スタジオ見学会開催」(連携企業等：株式会社アバコクリエイティブスタジオ )          期間：平成29年7月14日(金) 対象：学科教員          内容：若手エンジニアの育成について</p>		
<p>②指導力の修得・向上のための研修等</p> <p>研修名「対人コミュニケーションとプレゼンテーション研修」(連携企業等：株式会社アルゴオ)          期間：平成29年9月 対象：学科教員          内容：対人コミュニケーション力とプレゼンテーション力向上</p>		
<p>(3)研修等の計画</p> <p>①専攻分野における実務に関する研修等</p> <p>研修名「著作権の基礎知識」(連携企業等：(一社)日本音楽スタジオ協会(JAPRS)、東洋大学 )          期間：平成30年11月24日(土)・12月1日(土)予定 対象：学科教員          内容：音楽ビジネスの現状と課題</p>		
<p>②指導力の修得・向上のための研修等</p> <p>研修名「授業力向上研修」(連携企業等：エヌケーテック株式会社)          期間：平成30年11月16日(金) 対象：学科教員          内容：伝わる授業プレゼン力向上</p>		

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

学校関係者評価については、文部科学省策定の「専修学校における学校評価ガイドライン」をベースに、任意団体である全国専門学校経営研究会(加盟校:26法人113校)により協議検討を重ねた「自己点検・評価基準」を主に、点検基準表を策定し、学校が委員会等の点検・評価を基に作成し、学校長が再点検の上、学校運営に反映させる方針とする。

(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	教育理念、教育目的、教育目標
(2) 学校運営	教育の内容・管理運営・改革改善
(3) 教育活動	教育の内容
(4) 学修成果	教育目標の達成度と教育効果
(5) 学生支援	学生支援
(6) 教育環境	教育の実施体制
(7) 学生の受入れ募集	学生支援
(8) 財務	管理運営(法人)
(9) 法令等の遵守	管理運営
(10) 社会貢献・地域貢献	社会的活動
(11) 国際交流	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

学校関係者評価の結果については、学校関係者評価報告書としてまとめ、ホームページ等で公表する。報告書の内容については教職員会において周知するとともに、教育課程編成委員会においても説明することで、学校としての課題と改善の取り組みを共有し明確にする。

今年度の評価では学校全体に対する意見のみであったが、企業等委員の経済団体役員より「地元企業との連携によるインターンシップで地元就職できる仕組み」についての意見を受け、進級時の春休みを利用して、2学年全員で取り組むこととした。音響・ミュージック科としては、連携している株式会社アル・ケー・ビー様をはじめ、地元のテレビ局や映像制作企業にインターンシップの受け入れ協力を依頼して取り組んでいる。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

平成30年10月15日現在

名前	所属	任期	種別
鈴木 秀明	公益財団法人郡山地域テクノポリス推進機構	平成30年4月1日～平成32年3月31日(2年)	企業等委員
鈴木 賢	株式会社アイ・シー・オー	同上	企業等委員
和知 渉登	国際アート&デザイン大学校 同窓会会長	同上	卒業生

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例) 企業等委員、PTA、卒業生等

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

ホームページ・広報誌等の刊行物・その他( ) ( )

URL: <http://www.art-design.ac.jp/>

公表時期: 平成29年7月31日

5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

当校の教育内容、内部活動、外部活動、資格・コンペ・表彰、また学校経営に係る事項等の実績については、公益法人として、関連団体・関連業界・学生就職先のほか、広く万人に発信する。

(2) 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	学校概要・教育理念・教育目標
(2) 各学科等の教育	学科別カリキュラム・特色・資格・就職実績
(3) 教職員	専任教員・兼任教員紹介
(4) キャリア教育・実践的職業教育	キャリア教育・就職指導
(5) 様々な教育活動・教育環境	学校行事・対外活動・イベント・施設・設備
(6) 学生の生活支援	各種奨学資金・学生寮・住居紹介
(7) 学生納付金・修学支援	各種奨学資金・学費サポート・特待生制度
(8) 学校の財務	収支決算書
(9) 学校評価	自己点検評価結果
(10) 国際連携の状況	留学生状況・国際提携校・国際交流活動
(11) その他	生涯学習・編入学等

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 情報提供方法

(ホームページ・広報誌等の刊行物・その他( ) )

URL: <http://www.art-design.ac.jp/>

授業科目等の概要

(文化教養専門課程音響・ミュージック科) 平成29年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			就職実務Ⅰ	自己分析と職業理解	1	28	-	○			○		○		
○			コンテンツ制作実習	ラジオ番組に代表される音声コンテンツの制作を実習する	1	56	-			○	○			○	
○			楽典Ⅰ	音楽の理論(楽典)を学ぶ	1	28	-	○			○		○		
○			音響心理Ⅰ	音楽と音響が人間の心理に与える影響効果について学ぶ	1	28	-	○			○			○	
○			ProTools基礎	録音に必要な世界標準の録音システムの基礎について学ぶ	1	28	-		○		○			○	
○			録音実習Ⅰ	音楽録音に必要な楽器と音声の録音技術を学ぶ	1	84	-			○	○			○	
○			音響実習Ⅰ	音響の理論とステージ運営に必要な実務を学ぶ	1	84	-			○	○	○		○	○
	○		楽曲制作	ポピュラー音楽制作のための旋律構成を学ぶ	1	84	-		○		○			○	
	○		業界研究	音楽全般と音楽業界の知識と実務について実習する	1		-		○		○			○	
○			コミュニケーション概論	社会生活における円滑なコミュニケーションを実践するための知識を学ぶ	1	28	-	○			○			○	
○			デザイン演習	フライヤーやCDジャケットの制作を実習する	1	56	-		○		○			○	
○			アンサンブルⅠ	スタジオでの実習により読譜力や楽曲に対する理解力を深める	1	84	-			○	○			○	
○			実演演習	音響の理論とステージ運営に必要な実務を学ぶ	1	84	-		○		○			○	
○			企画制作実習	イベント企画について学び、実際のステージを企画運営する	1	84	-			○	○	○		○	○
○			修了制作	1年生の集大成を企画制作する	1	180	-			○	○	○	○		
○			社会人マナーⅡ	社会人に必要なマナーとルールについて学ぶ	2	28	-	○			○			○	
○			コンテンツ制作実習	ラジオ番組に代表される音声コンテンツの制作を実習する	2	56	-			○	○			○	
○			音響心理Ⅱ	音楽と音響が人間の心理に与える影響効果について学ぶ	2	28	-	○			○			○	
○			楽典Ⅱ	音楽の理論(楽典)を学ぶ	2	28	-	○			○			○	
○			音楽史	音楽の歴史を体系的に学ぶ	2	28	-	○			○			○	

○		ProTools応用	録音必要な世界標準の録音システムの活用方法について学ぶ	2	56	-	○	○		○	
○		就職実務Ⅱ	自己分析と職業理解	2	28	-	○		○	○	
○		録音実習Ⅱ	音楽録音に必要な楽器と音声の録音技術を学ぶ	2	84	-		○	○		○
	○	楽曲制作	ポピュラー音楽制作のための旋律構成を学ぶ	2	84	-	○		○		○
	○	業界研究	音楽全般と音楽業界の知識と実務について実習する	2		-	○		○		○
○		音響実習Ⅱ	音響の理論とステージ運営に必要な実務を学ぶ	2	84	-		○	○	○	○
○		アンサンブルⅡ	スタジオでの実習により読譜力や楽曲に対する理解力を深める	2	84	-		○	○		○
○		実演演習	音響の理論とステージ運営に必要な実務を学ぶ	2	84	-	○		○		○
○		企画制作実習	イベント企画について学び、実際のステージを企画運営する	2	84	-		○	○	○	○
○		国際デザイン研究	海外の学校訪問で現地学生とのワークショップやイベントを通して交流する	2	42	-		○	○	○	○
○		卒業制作	2年生の集大成を企画制作する	2	180	-		○	○	○	○
合計				31科目		1,914単位時間( 単位)					

卒業要件及び履修方法		授業期間等		
・ 必須科目の単位取得	・ 出席率年間90%以上	・ 卒業修了制作が合格	1 学年の学期区分	2期
			1 学期の授業期間	18週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。